

環境委員会の代表と執行部の代表 2 人の生徒が、ノーチャイム週間のまとめを報告するために校長室を訪れてくれた▼多くの生徒が時間を意識し、授業開始時刻前になると、声かけがあったと聞いた。全校が「ノーチャイム」を意識することができた。一人ではできない素敵な挑戦だった▼この取り組みをやってみてよかったという感想がうれしい。これからはどうするの？と聞いてみると、「ノーチャイムはしたい。でも、チャイムが鳴らないと授業に集中できない、という意見もあった」たしかに、5分短縮の日は、いつもと時間の進み方がかわるので、やっかい。まずは、クラブのない、月曜日をノーチャイムにしようと思っているということを教えてもらった▼鳴らすかならさないかを考えての、折衷案だと思うが、今日は、あえて 2 人の生徒には、「やるということを前提とした物事の考え方」を話した。シンプルに考えるとノーチャイムをしたいと言ってくれたので、じゃあしよう！ということだ▼課題も出てくるだろう。それは解決すべき課題なのだ。ノーチャイムを前提とすれば、鳴らす時があってもいい。この先は、きっと上手に考えるだろう▼校長室から出ていく時、二人の生徒は、こんなことを言っていたらしい「チャイムが鳴るから授業が始まるんじゃないくて、わたしたちが集ったから授業が始まるんだよ」ノーチャイム習慣が始まる予感。